



徳成寺 寺比かわら版 第204号 2023年12月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

先日、とあるお通夜の席で幼稚園の年長さんぐらいの

お子さんが、配られたお経本を見ながら大きな声でお勤め

してくれました。普段お経など読んでいるわけではないのに、

とっても上手なので驚きました。その上手さもさることながら、

幼い子特有の純真無垢なお声に、色々と考えさせられました。人間は、

あの素直なところを、いつ頃から失って行くのだろうか？と。聞くとは、言う事を

聞く事だと仏教では教えられます。「そんな事して、何になるのか？」などと考えずに、

言われた通りやってみる。配られたお経を、無心にとなえる。これが教えを聞く事です。

仏教は、難しいことではありません。幼い子のような素直なところ・無心に立ち帰る

ことです。実は、この無心こそ人間に起きる最強のところなのです。

-発行責任者-
住職
大山 健児
坊守
大山 ひとみ



大山超世の耳を澄ませば

お世話になっております、副住職です。

ある門徒さんが本山の報恩講で5分間のお話をお願いされたそうです。しかし、本山で話すなんてとてもできません、と言う事で断ったと仰っていました。色々な学習会に参加している勉強家の方なので、私は「〇〇さんなら大丈夫でしょう」と申し上げたところ、すっかり恐縮してしまい、いかに自分が本山で話す事に向いていないかを5分かけて説明して下さいました。私自身は今年に入ってから、法要や学習会の講師といった機会をたくさん頂きました。話術も学習もまだ追いついていないという事を痛感した1年でもありました。用意をしても間に合わないという経験があるからこそ、この門徒さんの踏み出せない気持ちに強く共感します。来年も講師の依頼を頂く事があれば、きっとグズグズいうに違いありませんが、先輩のお坊さんから頂いた「勉強させて頂きます」を合言葉に励みたいと思いました。師走なので走るお坊さんです。よい年をお迎えください。

